

いま考えたいこと

# 避難所でも食事制限

東日本大震災から四十日余。避難所への食料供給は安定しつつあるが、食米が、腎臓病患者に喜ばれてい

## 腎臓病患者へ非常食を

米 保存・非常用に乾燥させた加工米が、腎臓病患者者に喜ばれてい。二〇〇四年の中越地震をきっかけり、病気を悪化させる人が出ている。に、新潟県で誕生した。

(稲熊美樹)

腎臓病患者は、タンパク質の摂取制限を必要とク質や塩分、カリウムの摂取を抑える必要がある。一方、一定のカロリーが必要。日々は、低タンパク質の米を主食としたカリウムを減らしたりするなど、食事に気をつけている。

避難所で配られるカット

ブ類やおにぎりは、食事制限のある人には不向き。湯や水を注ぐだけで食べられる。一般のアルファ化米は味付きが多く、塩分やカリウムに制限がある人は、あまり食べられない。

新潟県長岡市の農家らでつくる有限会社「エコライス新潟」は、保存・非常食として、腎臓病患者向けのアルファ化米「はんぶん米」を製造している。

使用する米は、タンパク

腎臓病と食事制限 慢性腎炎などの腎臓病のため透析を受けている人は全国で約29万人。全腎協によると、食事制限が必要な人は100万人ともいわれる。老廃物を尿として排せつする機能が低下するため、薬などによる治療のほか食事療法が大切とされる。



タンパク質を半分に抑えたアルファ化米「はんぶん米」。食事制限が必要な人向けの食事であることを呼び掛けるポスターも同封する—新潟県長岡市で

## 中越地震後に開発

## 現在は製造停止中

## 低タンパク質の「はんぶん米」

はんぶん米を四千食分備蓄する新潟県は、今回「被災地から要請がない」として発送を見送っている。一方の米に送って滞留してしまつて、かえって迷惑をかける」と担当者。一般のアルファ化米は要請があり、六十三百食分を送ったという。一方、エコライス新潟の豊水有さん(音)は「腎臓病患者は、はんぶん米を必要としている」と、宮城県や岩手県の避難所に自ら届けたい。はんぶん米を確実に患者に届けるため、同社は表示に工夫を重ねるが、苦労も多い。健康増進法で食品表示のルールが厳格化されており、病人用の「特別用

者団体の全国腎臓病協議会(全腎協)は、はんぶん米を備蓄している自治体に提供を要請。一部の自治体が応じている。全腎協の宮本高宏会長も「腎臓病患者の生活で透析もままならず、食事制限もできない」と体調が悪化する。腎臓病患者用の非常食は不可欠だ」と話している。

途食品」の許可基準を満たしていない春陽は、「低タンパク質米」「腎臓病患者向け」といった表示ができない。そのため、春陽を原料にしているはんぶん米も、タンパク質半分(2)などに表示せず、「カロリーや塩分を低減させた」と表示するだけ。消費者庁は「病気の方向けなので、基準を厳しくせざるを得ない」と話す。同社では、災害備蓄用にははんぶん米を自治体に納入する際、要請があれば「人が消化できない」タンパク質が半分、タンパク制限の方(2)に上ることを可能にする」と記したポスターを同封している。前か下げられる「透析患者」と書いたカードも一緒に入れる。一般向けの食料が足りないとき、遠慮して言い出せない患者がいたからだ。はんぶん米は、袋の原料メーカーが被災し、現在製造がストップ。在庫も尽きた。六月(2)再開予定だが、まだ自炊できない被災患者もいる。患